

トマト（夏秋被覆栽培）の病害虫の発生状況（7月上中旬）

1 灰色かび病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図1）。高湿度条件下で発生しやすい条件となるため、換気を十分に行ってください。果実に発生した場合、商品価値を大きく低下させるため注意が必要です。

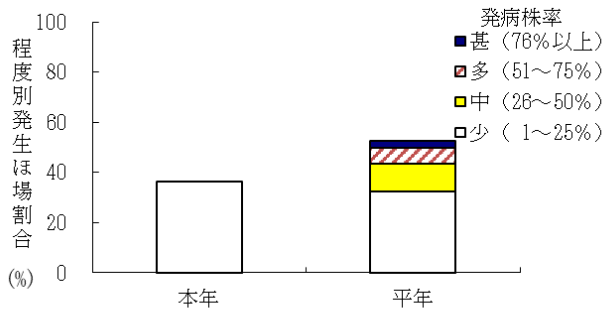


図1 灰色かび病の発生状況



写真1 トマト果実に発生したゴーストスポット

2 葉かび病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図2）。高湿度条件下で発生しやすくなるため注意してください。葉かび病抵抗性品種もありますが、これらの品種を侵す菌のレースが存在しますので、抵抗性品種を作付けしているほ場でも発病がみられた場合には、適切な薬剤を選択して防除してください。

すすかび病と病徴が似ているので、葉かび病かすすかび病かを確認した上、適切な薬剤を選択して防除してください。

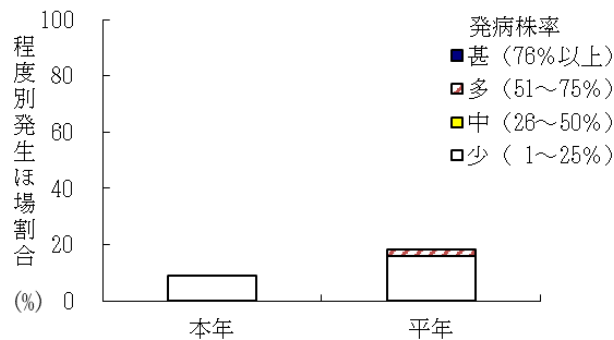


図2 葉かび病の発生状況

3 アブラムシ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図3）。ほ場をよく観察し、発生が多くなった場合には、速やかに防除を実施してください。また、アブラムシ類は、CMVなどのウイルス病を媒介するので注意が必要です。

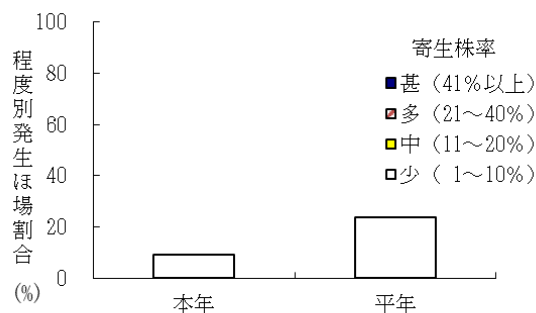


図3 アブラムシ類の発生状況

4 コナジラミ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした（図4）。県内における主な寄生種は、オンシツコナジラミですが、寄生種がタバココナジラミの場合は、着色異常果の発生やトマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介するので、注意してください。両種ともまん延すると防除が困難なので、低密度時から防除を実施してください。

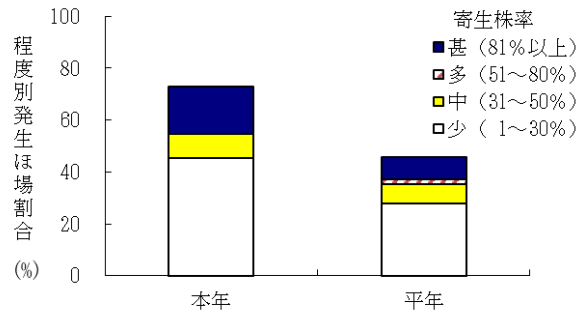


図4 コナジラミ類の発生状況

5 アザミウマ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図5）。防虫ネットの設置が定着していますが、ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施してください。また、アザミウマ類は、TSWVなどのウイルス病を媒介するので注意が必要です。

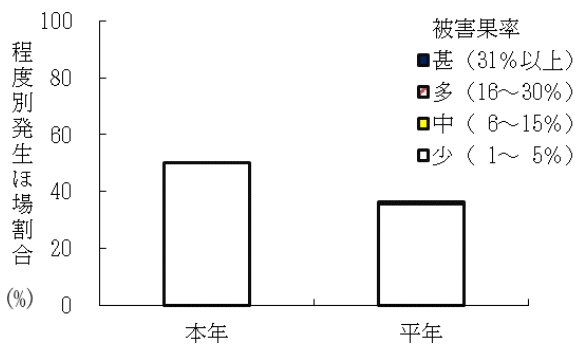


図5 アザミウマ類の果実被害発生状況



写真2 トマト果に発生した白ぶくれ

6 ハモグリバエ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図6）。まん延すると防除が困難となるので、発生が見られる場合には、低密度時から防除を実施してください。寄生種がトマトハモグリバエの場合は、今後の高温で増加する可能性があるため、注意が必要です。

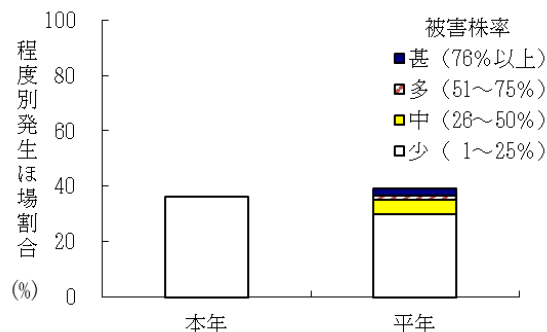


図6 ハモグリバエ類の発生状況

7 オオタバコガ

巡回調査では、果実への食害を確認しています。フェロモントラップ調査では、伊達市、新地町、猪苗代町での誘殺数が平年より多い状況でした（図7、8、9）。ほ場をよく観察し、発生が見られた場合には防除を実施してください。

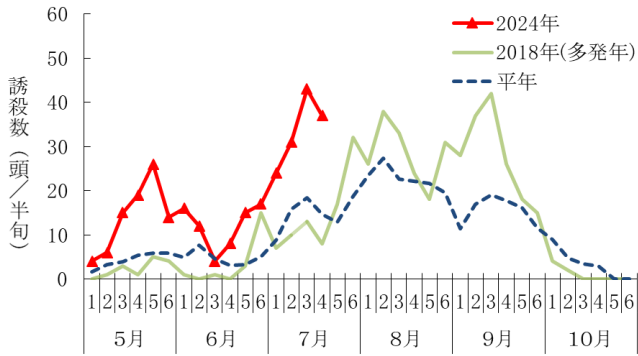


図7 フェロモントラップによるオオタバコガ誘殺状況
(伊達市保原町:キク)

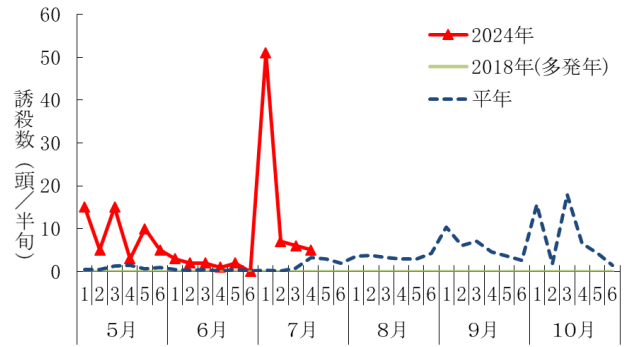


図8 フェロモントラップによるオオタバコガ誘殺状況
(新地町:キク)

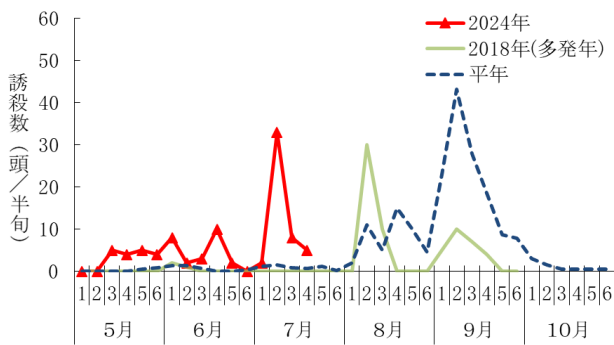
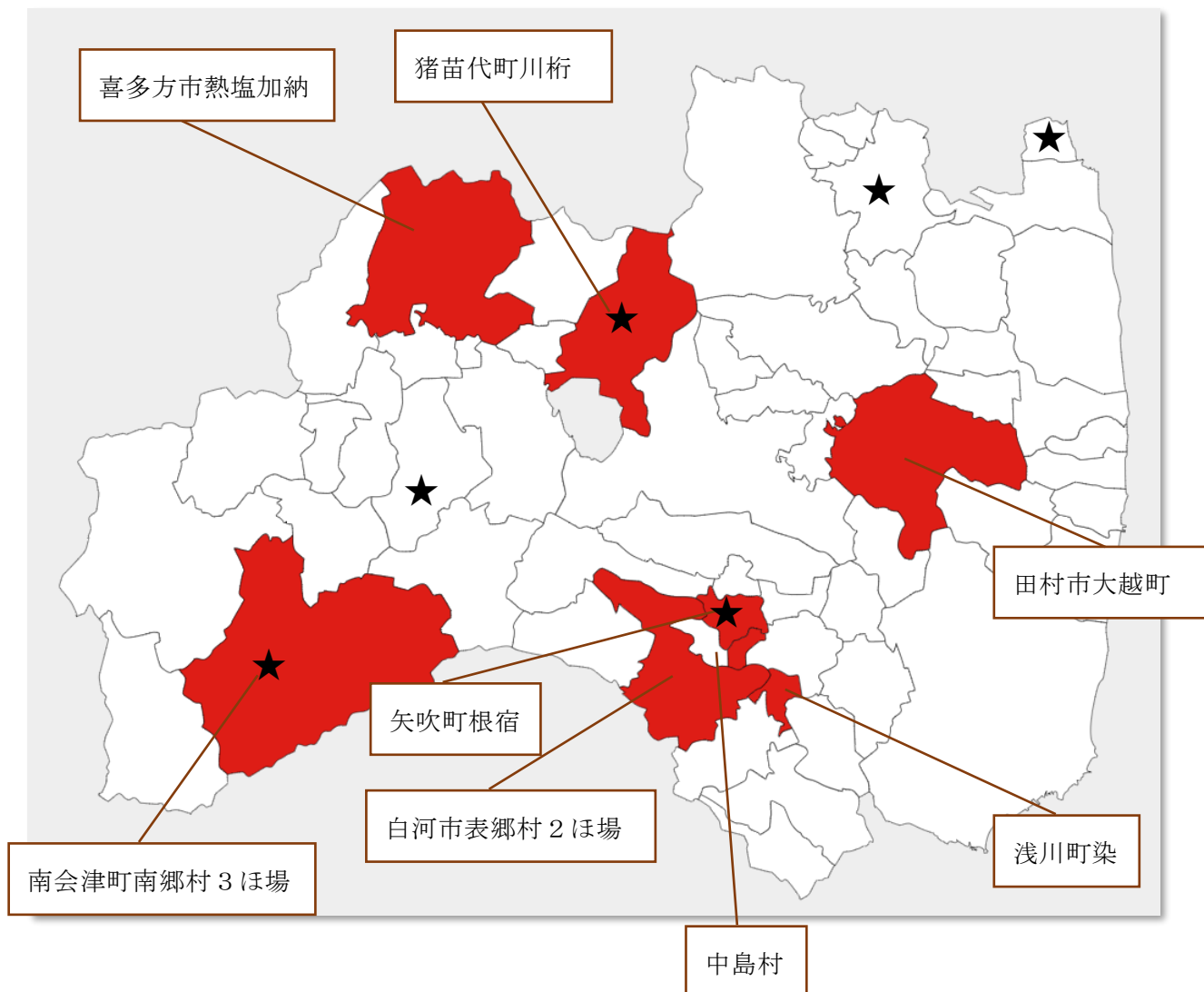


図9 フェロモントラップによるオオタバコガ誘殺状況
(猪苗代町:トマト)



写真3 果実を食害するオオタバコガ

※ 夏秋トマトの巡回調査では、下記の11ほ場を調査しています。



【地図中の記号】

★ : オオタバコガフェロモントラップ設置箇所 (キクほ場含む)

● 情報内容への質問や要望は、福島県病虫害防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709

Fax:024-958-1727

e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp